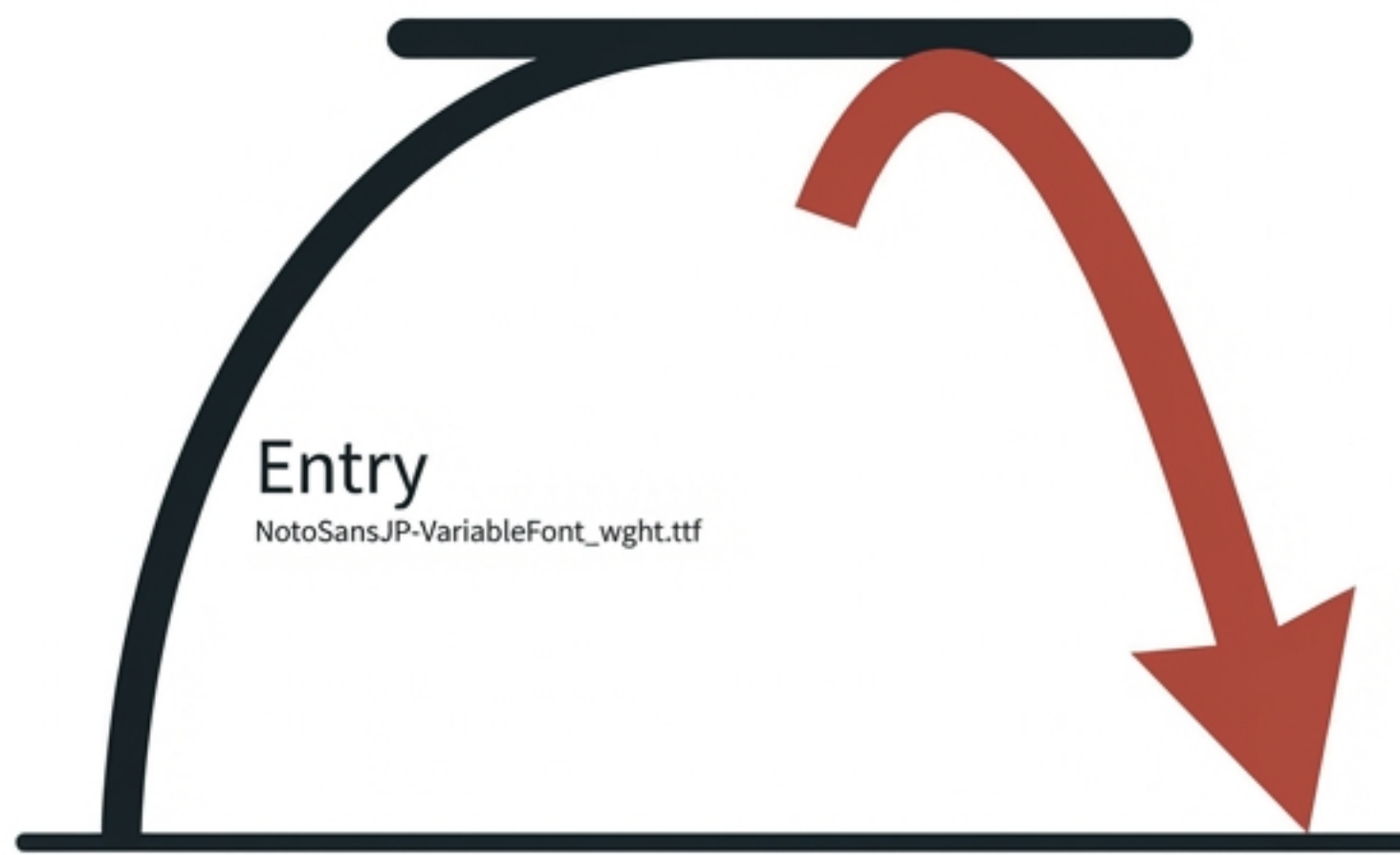


正しいトレードをしているのに、 なぜ利益が残らないのか？

押し目買いの「正解」が招く、構造的なパラドックス



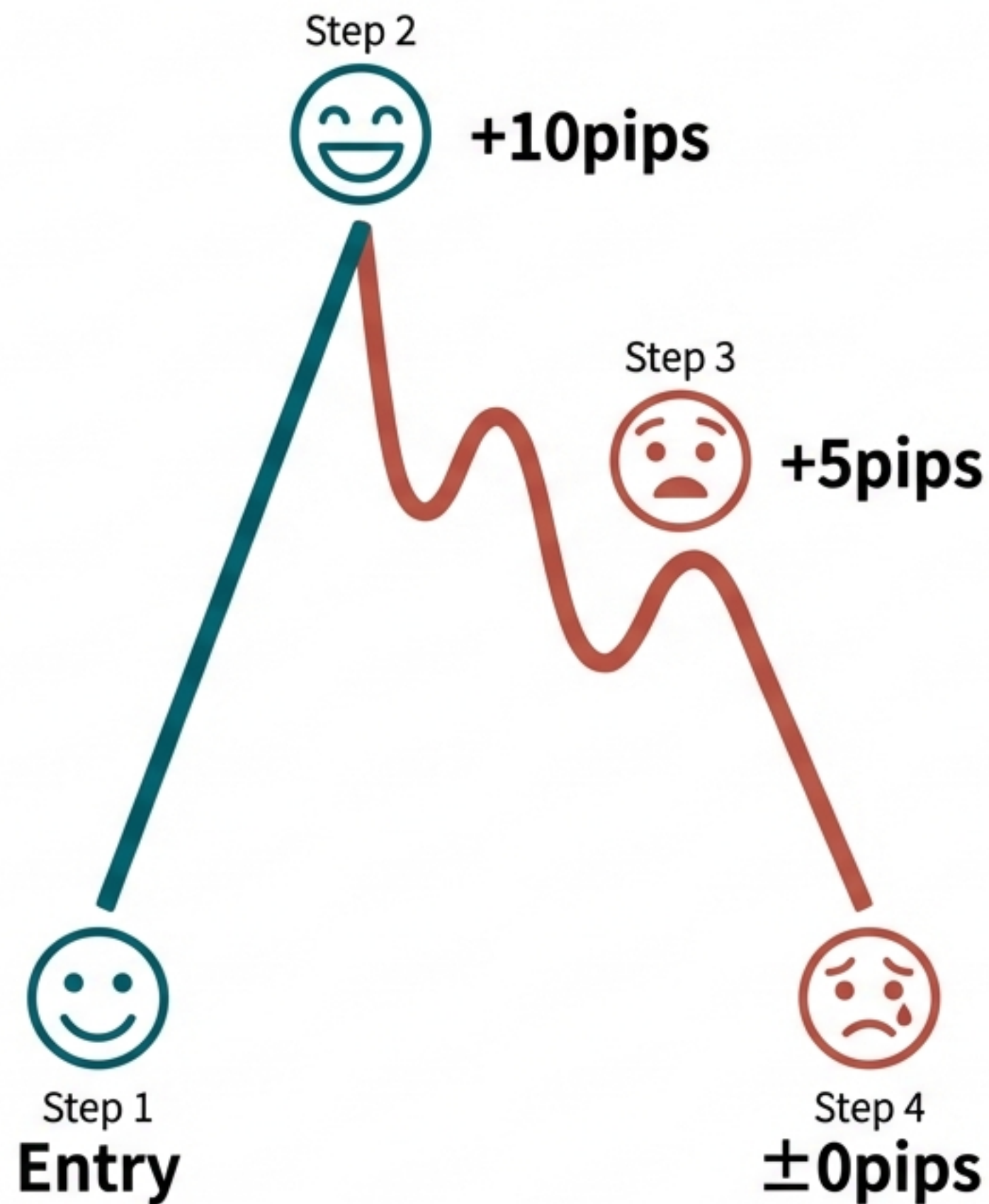
Presented by [Presenter Name]

「方向は合っていた」 という虚しさ

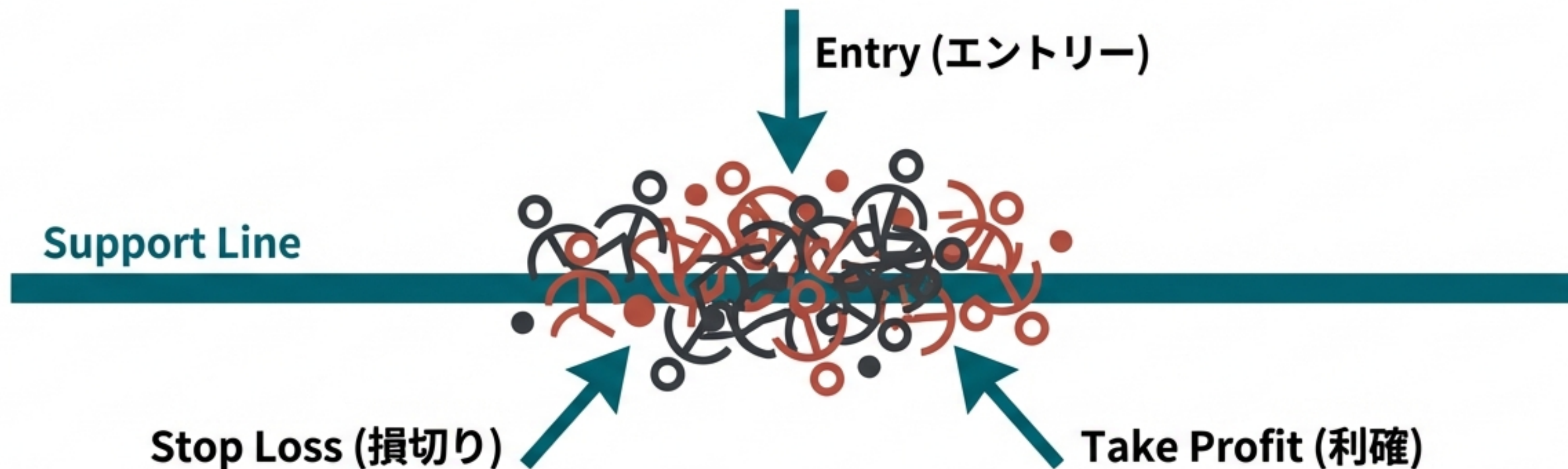
こんな経験ありませんか？

- ・押し目買い成功！含み益が出る
- ・「よし、ここからだ！」と期待する
- ・+10pipsまで伸びるが...
- ・+5pipsまで戻り...
- ・結局、±0pipsで建値決済

君の腕が悪いわけじゃない。
原因はシンプルで、その場所
「ライバルが多すぎる」んだ。



教科書通りの場所は、全員の集合場所



みんなが同じことを
考えている

- ・サポートで買う
- ・レジスタンスで売る
- ・移動平均線で反発を狙う

エントリーも利確も場所が被る。
だから、少し伸びてもすぐに
「利確の壁」にぶつかって
止まってしまう。

「高値掴み」に見える場所こそ、実は安全地帯



押し目買い (Dip Buying) = 混雑 (Noise)



ブレイクアウト (Breakout) = 静寂 (Quiet)

ブレイクアウトに対して「危ない」と思うのは正常です。
しかし、その「不利に見える場所」にこそ、利益が残る理由があります。

ブレイクアウトの正体＝「ライバル不在」

Vacuum Zone / No Rivals (ライバル不在)

Resistance Line



Crowded Zone (混雑エリア)

トレードで大事なのは「当てること」より「利確しやすい（邪魔されない）こと」。

押しが浅いから、メンタルが削られない

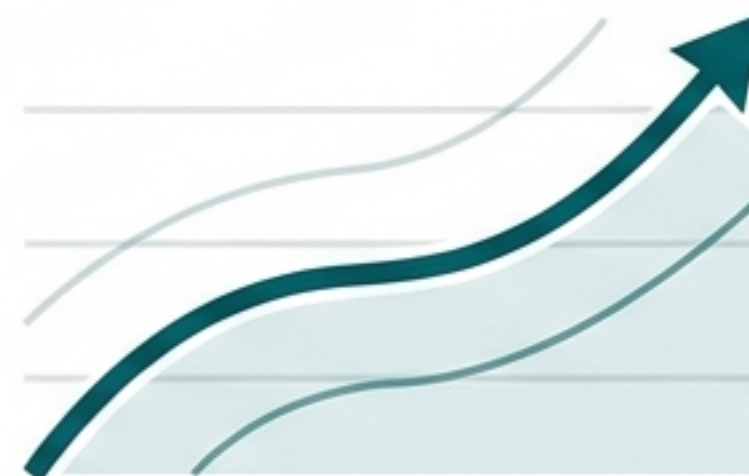
押し目買い (Dip Buying)



- ・すぐ上に利確勢がいる
- ・少し伸びてすぐ止まる
- ・含み益が減る恐怖

メンタル消耗
(Mental Exhaustion)

ブレイクアウト (Breakout)

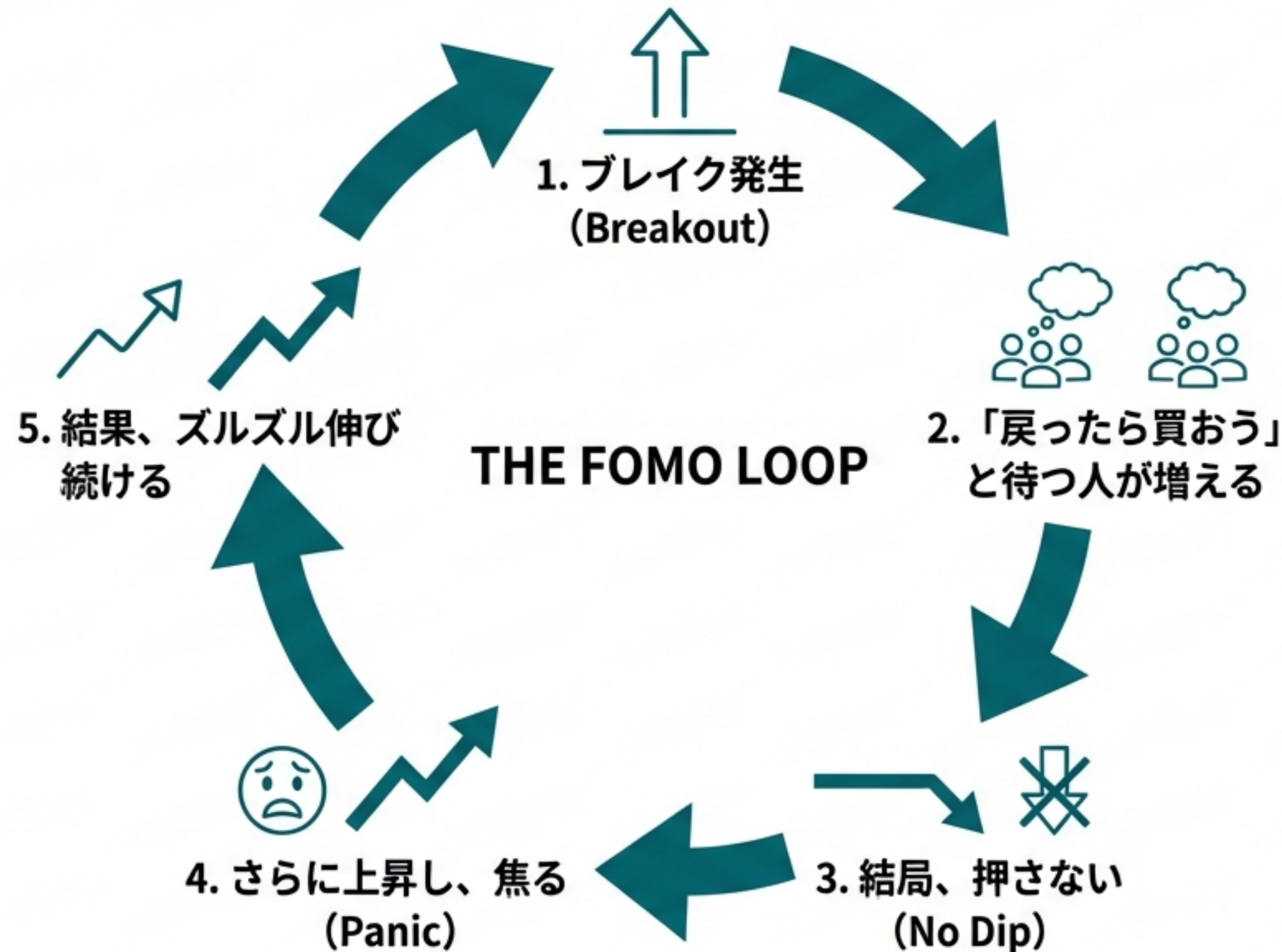


- ・上に障害物がない
- ・スルスル伸びる
- ・含み益が減りにくい

精神的余裕
(Mental Ease)

人間は含み益が減ると弱気になる生き物。ブレイクアウトは「ストレスフリー」な選択肢です。

「押し目待ち」が増えるほど、相場は止まらない



具体例：ドル円の上昇相場

145.00円ブレイク

戻らない

146.00円...

戻らない（信じられない価格へ）

信じられない価格から始まるのが、**スイングトレードの醍醐味。**

会社員こそ、ブレイクアウトを選ぶべき理由

The Problem

- ☐ チャートに張り付けない
- ☐ 細かい利確ができない
- ☐ 仕事中にメンタルを消耗したくない



ブレイクアウト×スイングトレード

- ☒ 「見ていなくても育つポジション」を作ることができます。



会社員の1日のルーティン（ブレイクアウト編）



朝 (Morning)



日中 (Daytime)



夜 (Night)

環境認識（10 mins）。
トレンド確認 &
ブレイクポイントに
「指値注文」をセット。

仕事に集中！
チャートは見ない。
メンタルは安定。

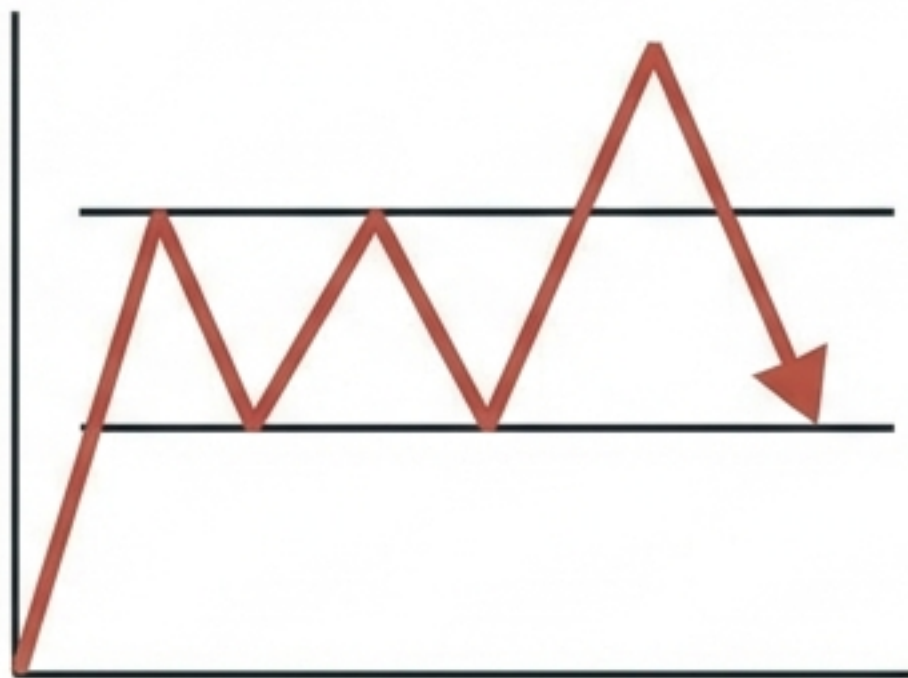
答え合わせ。
含み益があれば一部利
確、なければ放置。

生活リズムを壊さずに、大きな波に乗る。

⚠ 勘違いしないでほしいこと

「なんでもブレイクで飛び乗れ」ではありません。

✗ NG Pattern



レンジ相場からのブレイク（騙しが多い）

✓ OK Pattern



トレンド中の高値更新ブレイク

環境認識が全て。方向はあらかじめ「設計」しておくもの。ブレイクはあくまで「仕上げ」です。

「怖い」と感じる場所こそ、ライバルがいない

「高いところで買う」のは本能的に怖い。
でも、みんなが怖いと思う場所 = 誰も買っていない場所



安心して買える「押し目」ほど混雑している。勇気を出して静かな場所（ブレイク）へ行こう。

最後に利益が残るのは、「静かな場所」

01

ライバル不在

利確の壁がなく、伸びやすい



02

ストレスフリー

押しが浅く、放置できる



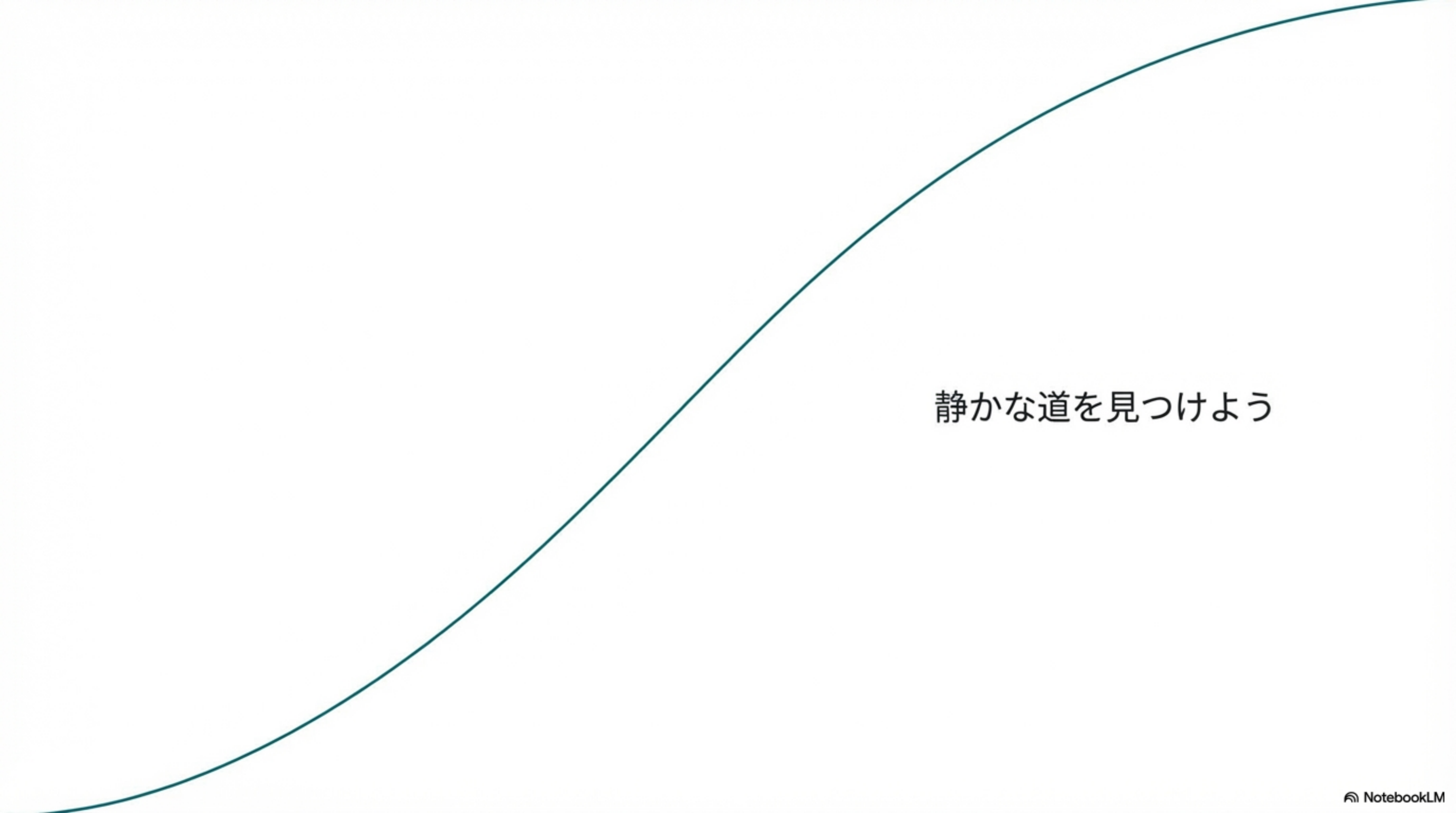
03

会社員向き

仕事中に勝手に育つ



混雑した場所で消耗するのはもう終わり。自分のペースで、静かなブレイクアウトを試してみてください。



静かな道を見つけよう